

平成30年第12回（臨時）高砂市教育委員会 会議録（要旨）

日時

平成30年8月2日午前9時

場所

高砂市役所西庁舎4階会議室

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、瀧野学校教育室長、都筑教育推進室教育総務課長
赤松学校教育室学校教育課長

本日の会議に付した事件

議案

- 1 平成31年使用教科用図書採択について（一部非公開）

議 事 議案 1 平成31年度使用教科書図書の採択について

○教育長 教科用図書の採択の議案が1つあるんですが、これの取り扱いですけれども、まず高砂採択地区選定委員会の会長さんから調査研究及び協議の結果報告を受けて、その後、質疑の後、教育委員さんの皆さんによる審議をいただいて採択を行うという予定をさせていただきます。

教科用図書の選定に関しましては、選定委員会の独立性の確保が非常に重要であるということで、地教行法の第14条の第7号の規定、公開しないことができるという規定によりまして、選定委員会会長が出席している間、この間につきましては非公開にさせていただいていいとします。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

了解いただきましたので、そうしたら、この後、会長さんが出席している間につきましては、非公開ということにさせていただきます。

それと、本日、傍聴の申し出が何人かおられるということですが、非公開の部分につきましては、高砂市教育委員会会議の会議規則の第14条、これによりまして傍聴を許可しないということとしたいと思いますが、これについてご意見はございますか。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

そうしたら、ご意見がないようですので、選定委員会からの報告と質疑が終了して、会長が退席するまでの傍聴をも許可しないということにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(非公開のため別途会議録作成)

○教育長 それでは、議案の平成31年度使用教科用図書の採択について、まず事務局から採択方針、それから観点、教科書展示会の説明をお願いいたします。

○事務局 (議案1について説明)

○教育長 報告いただきました。平成31年度使用の教科用図書の採択、道徳の採択の報告書と資料を見ていただきながら、審議をいたします。どなたからでも結構ですので、ご意見がありましたらお願いいたします。

○委員A 展示会の資料の関係ですが、中学校の校長先生、教員の先生方は一人も見られていないことが違和感を覚えたんですけど、これは各学校には教科書は届いて、学校で見ようと思ったら見られるんですかね。

○事務局 現段階では届いていません。

○委員A これをどのように考えていいのかと思うのですが、ほかの一般の方々には図書

館に置いてもらったということで見やすい状況で、多く見ていただいて、色々な意見をいただいたんですが。感想として寂しいなと思いましたけど。

○教育長 学校の場合は、教科書の展示会実施の件というのは連絡していただいているのですか。

○事務局 学校のほうには連絡はさせていただいております。

○委員A この道徳科を先生がしなきゃならないといったときに、やはりどんな教科書があるのかということに対して、興味を持ってほしかったし、来年から始まる形に関しての心準備の問題、例えば今回選定された教科書以外にも、どんな教科書があるんだろうということを知っていただいたほうがよかったかなという気はしますので、先生方は忙しいとは思いますが、ゼロだということに関して非常に残念な思いがします。

○委員B 私もゼロにはびっくりしたのですけれども、何かの形で事前に学習される機会というのがあったのかなと勝手に解釈したのですが、もしなかったのであれば、この図書館で見られるということをご存じなかったのか、それか、ご存じでも行けなかったのであれば、お時間的に余裕がないんじゃないかと思えますし、時間の働き方改革を今やっていますけれども、お時間の問題と精神的にそれだけの余裕がないというのは、あまりいいことじゃないなど。担任がすることとは、ほとんどの先生方が関わることだし、教科書をもってすぐに教えましようと思えることじゃないと思うので。ですから、次のことに向けて準備ができない状況というのは、よくないなと思えますので、何故どなたもここへ関心を持たれていても行けなかったのか、その辺のところをお聞きいただきたいと思うんです。

○事務局 理由については今のところ、わからない状況です。周知がしっかり校内でされていたのかということも含めまして考えて、これからまた対策はとっていきたいと思います。

○教育長 展示会に関しては、市民の方が700人以上参加していただいている中で、学校の関係者が小中と合わせてお一人ということは、多分教育委員会としてもしっかりとPRをできていなかったのではないかとということが問われていますので。学校だけの責任じゃなくて、教育委員会事務局としましても、もう少し期間の中で積極的に啓発をしていくことができていなかったです。また今後、しっかりと反省して取り組んでまいりたいと思えますので、よろしく願います。

展示会について、よろしいでしょうか。では、採択についてのご意見等がありましたら、お願いいたします。

○委員A それぞれの出版社の努力は非常に素晴らしいものでありました。選定委員会の先生方も、内容を非常に真摯に選定していただいております。教材に挙げられているものに関しても、非常にいい教材を選んでくれているということで、

教材の内容に関しては、8社遜色なくてそこで掲載している教材の内容についての優劣は非常につけにくいものでした。

それと最初にテーマを設定するに当たって、テーマを見せないで話し合っていくような形とか、誘導しないような形を主眼に置いていたり、あるいは、どうしても誘導されるようなテーマが前にあったりとか、その出版社によっていろいろ差がありました。

また、個人的な意見を言いますと、ある出版社が非常に高度な文章を、高いレベルでまとめ上げていたところがありました。また自分が2番目、3番目の選定していたところが、選定委員会も2番、3番を選んでおられるので、選定委員会とも同じ、近い意見だったんだなという感想をもっています。

○委員B

私は、最終的には現場で授業をされる先生方が一番やりやすいというものがないのかなとは思いますが、道徳ノートみたいなものがつけられているところが2社ありました。ノートに関しては、現場で使いやすいのか、逆にそれが負担にならないのかということが気になっていましたが、先ほど選定委員会のお話をお聞きしたところ、それは負担になるというよりは評価の対象としてプラス面のほうが多いということなので、この心配はなくていいのかなというのは先ほど感じました。それと、どの出版社さんもほんとうに子供のために心豊かになるようにということで、いい教材を選んでくださっていて、こんなに心の栄養になるものを詰め込んだ本というのは、私は今まで読んだことがないので、ありがたいなと思いましたし、将来、子供たちが何かに行き詰まって立ちどまったときに、相談相手にしてくれるような本ができたんじゃないかなと、とても嬉しく思いました。また、相談相手になっていただきたいという思いを持っていますので、方向を「こう行きなさい」ということをあまりしてほしくないなと思います。子供に投げかけは必要だと思うんですね。例えば正義って何？ 正義を貫くってどういうこと？ どんな方法でできる？ みたいな投げかけとかテーマって絶対ないと、そこで自分のこととして深く考えられないと思うんですけれども、それを正義を貫くことが正しいことだとか、当たり前のことのような方向を指示しないでもらいたいというか、答えがいっぱいあるということを逆に知ってもらいたくて、答えがマルかバツかということで人って追い詰められて間違った道を選んだりすると思いますので。いっぱいいろんな考え方があって、道があって、そこへたどり着く方法なんて、あらゆる考え方があって、道があるんだよということを教えてくれる本であってほしいなと思いますので、そういう意味では、方向を指示しない教科書が選ばれることを私は個人的には望んでいます。

○教育長

ありがとうございます。先ほども選定委員会からの報告の中でも、委員Bさんからご意見いただいて、委員Aさんからもいただいたんですけれども、あまり誘導するようなものではなくて、テーマを見て、こうあるべきだと示されてし

まっているのもちょっと疑問だなというご質問も先ほどもありまして、そういう意見も選定委員会の中で出たという話も報告を受けました。

そんな中で、明らかにテーマを出しているものと出していないものがあるように思うというご意見もある中で、それを教師がどう進めるかということも大切だなという意見が先ほども出たのですが、それも含めて、できたら具体的に、選定ということですので、教科書会社さんの名前も入れていただきながら協議していただいてもいいと思います。

○委員C ほんとうに8社さん、どこもすばらしい教材、力を入れてつくっておられるのだなとつくづく思いました。私は具体的に8社を選定させていただくときに、5つ、6つ、観点を自分なりに決めました。その中で比較させていただいて優劣をつけさせていただきました。

まず1つ目は導入。今年から教科書として入るわけですから、特に1年生にどのような導入、どのようにこの教科書を使って授業をするか、そして何を学ぶのか、これからどうしたらいいのか、そういう導入の部分がすごく大事だと思ったので、その部分でまず比較をさせていただきました。加点したところの業者さんだけをお伝えいたします。日文さんは非常に丁寧な導入です。学年によって写真も変更しておられます。日本教科書さんは丁寧な導入なんだけれども、3学年とも同じ内容でした。東京書籍さんは見開きにして、わかりやすく導入をされておられました。それから、教育出版さんは丁寧な導入があって、1年生の導入とかは特に説明とかが丁寧にあります。光村さんは丁寧な導入があって、1、2年と3年生では導入の中身を変えていましたというところで、今申し上げた会社さんに加点プラスをつけました。

2つ目は、授業の中での導き方、別冊も含めてこれを見させてもらいました。まず、別冊の取り扱いについては異論があると思うのですが、私は別冊はあったほうが良いと思っています。その理由は、まず、生徒にとってはそれを使って振り返りができるし定着がしやすい。教師にとっては別冊がなくても、教師はほとんどがワークシートをつくるんですよ。それがこの別冊があることによって時間の短縮ができるであろうと。それと、評価が今回ついてきます。どのように評価するかが教師の大きな悩みだと思うんです。別冊を使って評価の基礎的な情報が得られるかなと。あと、保護者にとっても、今どんなことを勉強しているかを理解するのにも、その別冊は役に立つだろうと。こういう観点から別冊はあったほうが良いなど。当然、別冊があることによって、意見を誘導させ過ぎてしまうという危険性もあるんですが、そこは別冊の資料ですので、取捨選択、有用なものだけを使うという、それは教師の裁量かなと思っております。ということでいえば、日文さんとあかつきさんが別冊がありました。ただ、日文さんは左とじになっているのがちょっと気になりました。

それから、設問的なことといえば、学図さんは話し合い活動とか書く作業、

これは定着とか振り返りに役立つんですが、ほとんどの教材に入っていました。あと、光村さんは「つなげよう行動に」とか「結びつく」とか「気づき」とかで、そういう書く作業を多く入れておられました。これもいいと思いました。

それから、内容面でいえば、いじめが今一番、早急の課題で大切だと思うんですが、日文さんがちょっといじめに関する教材が多いかなと思いましたが、ほかは横並びかなと思いました。

その次に、どんな中身が必要かなと思ったときに、私は情報モラルが大切かなと思ひまして、情報モラルについての教材数を確認しました。そうすると、日文さんとあかつきさんがこの教材面では充実しているように感じました。

それから、教科書のサイズですが、Aサイズ、ABサイズ、Bサイズとあるんですが、私はABサイズがいいのかなと。これも全く主観的なことですが、そう思いました。そういうことからいえば、あかつきさんと東京書籍さんと学図さんがいいんじゃないかなと思いました。

あと、これも全く主観的なことですが、いわゆる教科書として、この本を持ったときに、色とかイラストとか紙質とか、道徳をするわけですから、しっくりした感じ、落ちついた感じ、あまりきらきらしているのはあまりよくないと思うのですね。何がきらきらで、何がしっくりかというのも全く個人的なものになるのですけれども、私的には学図さんと光村さんが、自分の中では落ちついてしっくりしているかなという感じを持ちました。

最後に、今言った以外の点で加点として扱えるところは何かなと思ったときに、あかつきさんは1年生のフォントだけを、フォントサイズを大きくしているんですね。2、3年生は普通で。これはいい工夫だなと。それから学研さんと日本教科書さんは、教材の地域性というか、兵庫県ではこんなですよ、どこではこんなですよと地域性の一覧表みたいなのかな、そんなのをわかりやすく表記していたのが、これも工夫だなと思ひました。

それから、学校図書さんは、フォントサイズが全学年とも他社さんより、多分0.5ポイントぐらい大きいのかな。全部大きくしている。これも工夫だなと思ひました。

そんなことで、私の中では一応上位3つとして、あかつきさんと日本文教さんと光村さんと思ひています。

○教育長 詳しいご意見をいただきまして、ありがとうございます。今出ました、内容が特に大事なんですが、持った質量とかイラストとか質感とかそういう教科書としての、この本を持ったときの感じみたいなものも考慮していただいて、ご意見をいただいたんですが。まず内容の前に、今、委員Cさんが言われた色、イラスト、紙質、サイズ、そういうことについて何かご意見はございますか。

○委員D 私もサイズだとか、字の大きさだとか、やっぱりそういう視点でも見ていました。やはりあまり目にぎらぎらと入るやつというのは、どうしても私の年齢的

にもなかなか違和感があります。漫画チックなものも、ちょっと抵抗があったので、どうしてもオーソドックスなタイプがやっぱり入りやすい、集中しやすいかなというところが個人的にはあります。特に思ったのが光村さんのところ、挿絵だとかが非常にソフトな感じで、かつ紙質も真っ白じゃなくて、反射がしにくいような感じの紙質であったということが読んでいて集中力が続きますね。それに反するものもやっぱりあります。どうしても目に逆に反射するような感じのやつは、なかなか集中できなかったというものもあって、そういう意味では光村さんのものは私としては読みやすく、非常によかったです。

フォントのところは、ほんとうに各社いろいろ考えてもらっているなと思いました。1年生だったら大きな字で、すき間もあいたほうが見やすい。だんだん段階が上がってきて、小さくなってくるのは必然的に、それもやっぱりいいんじゃないかということで、その辺のフォントの関係はあかつきさんなどが非常に細かいところまで気にされているというのは評価に値するかと思います。

あとはやっぱりサイズですね。小学生の高学年から本の重量が多くて、持ち運びに非常に苦労しているということもあって、大き過ぎるとかばんにも入れにくいというのもあったので、学研さんのA4サイズ、ほかのところと並べるとちょっと大きいかなというのがありました。それは学研さんのほうで、意図があってそういうのがあるのかもしれませんが、客観的にちょっとフィーリング的なものもありますけれども、そういうところで多少はコンパクトなほうがいいのかなと思いました。

- 教育長 内容以外で何かございますか。今出ている内容以外で何かありましたら。
- 委員B 私もサイズとか文字とか紙質で、光村さんのものというのは何となくずっとその世界に入っていける紙の色と文字なのかなと。だから、小説を読んでいるような気持ちになって読んでいけるというのはあるのですが、それは私たちの世代なのかなというのもちょっと思って、この学研さんなんかは雑誌サイズじゃないですか。だから、意外と子供たちって、このサイズのほうが雑誌っぽくばらばら見るのかなとか、子どもたちの感覚については未知数です。でも、私は個人的にはやっぱり小説のように読めるほうが、自分は自然に読めたかなと思いますね。

- 教育長 教科書の形については、かなり個人の思いが出ているように思いましたけど、子供たちにとっての、どういったものがということも入れた形でご意見をいただきました。いいですかね。

そうしたら、やっぱり内容ですので、中身のほうのご意見をいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

- 委員D 各社さんとも定番のところはしっかり押さえられていて、取り組み方法とか、その他に関して、考えながら構成されているというのが非常にわかりました。だから、各社さんとも非常にできがよくて、読んでいくと非常に感動するもの

が多くて、定番のは「やっぱりな」とまた再度、確認できるような感じで見ていきました。

また、そういう定番以外のところで心を打たれるものが幾つかありますね。私が心を打たれたというのが、今、我々が生きている世界というのは、これが普通だと考えてしまうんだけど、そうじゃない世界がいっぱいあるというのが。アフリカだとか東南アジアだとか、そういうところの人たちの生活または環境、子供たち、また教育だとかいうのが、支援だとか、かわいそうだとか、何とかしてあげたいという感情がぼんと出てくる。そういうインパクトというのがあって、特に強かったのが教育出版社さんなんですけれども、「アフリカの少女」という。あれは、もちろん写真だけでも非常にインパクトがあって、ああいうのを見ると子供たちも非常に感じるものがあるんじゃないかと。

ちょっと懸念されるのは、あまり直視すると耐え切れないというのものもあるかもしれませんが、3年生のところにあっただけで大丈夫かとは思いますが。非常にあれは題材としてはインパクトがあったなというところが私の感想です。全部見た中で一番インパクトがあったのがあれです。

ほかに、そういうインパクトのあるものはやっぱり評価が高いというのが私の気持ちで。またそこで話は変わるんですけど、もう1つ、視点としては、先生が子供たちにうまくそれを、道徳教育を指導できるかという部分がやっぱり気になったところで、いろいろ年齢も経験も多彩な先生が、全員一斉にそういう指導をやるようになったときに、ばらつきがあったらいけないというところは特に思いました。

先生が十分その内容を理解しながら、指導方針としてはしっかりしたものを持ちながらやっていくためには補助教材的なものが必要じゃないかと。それでまず前もって勉強して行って、それで自分の考えをまとめて生徒たちと対話していくという。そこで充実していたのが、光村さんのところの解説資料が先生のための教材としては、いろいろ工夫されているなというのが感じたところです。私の視点では、そういうところが、響いてきましたね。

○教育長 ありがとうございます。選定委員会の報告の中でもありました、教師がどのように使うか。教師サイドの使いやすさ、または生徒にとっての適切さ、両方がやっぱり必要やというご意見もありましたけれども、そのあたりも含めて内容について何かありましたら、お願いします。

○委員A それぞれの教科書の一つ一つが終わっていくのではなくて、前のテーマからもう一回出てきたものを掘り深めた形での思考をいろいろされているので、これだけの教材の選び方、並び方、それを反芻していくような形の、深めていくための配置の仕方というのが、それぞれのところの特徴があって、非常に努力してくれているのを感じました。

ただ、この教科書がどのレベルの子に対して中心を置いているかということ

になると、あまりにも難しい内容的なものがあつたりすると、話もしにくいところもあるだろうし、難解なところがあつたりすると、先生がどんなふうに対応して纏めようと悩んでしまうかなと思います。

教科書の書き方の中に、中学生というものをすごく高く評価した書き方と、ちょっとこれは中学生に対してレベル的に低いのではという、そう感じる教科書もあつたりします。名前を言いますと、光村さんはほんとうにすごいレベルで書き上げているから、良いのですが、また難解かなと思ったりします。

だから、僕にとっては光村さんと日文さんとあかつきさんという3冊がやっぱり選ぶ対象に入ってくるんだろうなという意識があります。あとこれは道徳ノートがあるからというわけじゃなくて、自分の評価の中では、点数としては3出版社に入っています。

○委員C 内容というところから言いますと、教材で道徳の授業として、それが定着して、子供たちがそれを表現できる、行動できることがやっぱり目標だと思います。行動とか、表現に結びつけるような工夫とか仕掛けとかがどれだけあるかだと僕は思うのです。行動に移せるかどうか、行動に移せなくても、目立った行動にしなくても、少なくともいじめる側には回らないぞ、みたいなことでも、個人の段階があるから違うと思うのです。そういうことを定着するとか表現する、行動するためには、やっぱり話し合ったり、書いたり、そういう作業で自分の気持ちを話し合っただんだんわかってきたりとか、友達の気持ちがわかったりとか、書くことによってそれが定着したりとか、そういう作業が道徳の授業の中で必要だと思います。

ですので、今回、私は観点の1つにそれを入れたのですが、どれだけ授業の中でそういう活動をさせようとしているのか、そこをポイントにしている教科書会社さんは僕はいいなと思って、先ほどと同じ話になるんですけども、そういう意味では日文さん、あかつきさん、学図さん、光村さん、この辺を高評価の材料として考えました。

○教育長 文科省のほうで「議論する道徳」ということもよく言われていて、それもプラス評価になったということもあって、評価の絡みもありますし、そういう意味では、今、委員Cさんがおっしゃったような、授業の中では話し合い活動、または思考を深めるための書く活動みたいなものもやっぱり大切な方法だと思いますし、議論するためには、子供たちが理解できて、先ほども委員Aさんがおっしゃったような、多様性を認める内容を子供たちが目の当たりにして学習していくということも必要かなということ。全部意見が出ましたけれども、そのあたりを含めて内容について具体的な、委員Dさんから出ましたような、実際のこの教材はよかったとか、それぞれの今の子供たちの課題である情報モラルであるとか、いじめであるとか、そんなものを取り上げているところがいいんじゃないかという委員Cさんの意見もあつたんですけども、ほかに何か内容

も含めた形でご意見がありましたら、いただけましたらありがたいです。

○委員B

私は先生方が子供たちと話し合う場というのをつくられると思うのですが、自由に子供が意見を言うわけですから予測外の意見というのが出てくると思います。それをどう先生が受けとめて、どうしていくかというのが一番難しいことなのではないかと思います。ですから、やはり先生方が前もって自分たちである程度やってみて、どんな意見が出るだろうかということも最初にさせていただきなさいいけないのかなと思うのです。

そういう意味では、教育出版さんなんかテーマがすごく身近な気がします。すごく具体的で身近なので、ぼんと与えたときに子供たちが出してくるものが、ほんとうに自分たちに照らし合わせて出してくるのではないかという感じを受けましたので、授業としてはやりやすいのかなという感じを受けました。

日本文教出版さんなんかはロールプレイみたいな、実際に言葉に出して子供たちが言うとかという形をとって、もっと具体的に自分が参加して体で感じていくということもしているので、自分事として受けとめていくということが多分一番大事だと思うので、こういう形というのも1つの手法としてすごくいいのかなと思いました。

それに、あと、それをまとめるノートもありましたので、そこで先生方が自分の考えでまとめていなくても、ノートに沿ってまとめていくという方法もできるのかなということを感じましたので、やっぱり日本文教さん、あかつきさん、教育出版さん、そのあたりというのは、みんなで話し合っていきやすい教材かなと。

ただ、あかつきさんの場合は、私の個人的な意見ですけれども、まとめのノートのほうで何か方向性を感じるようなタイトルがついてしまっている感じを少し受けてしまいます。

あと、光村さんに関しては、私の個人的な思いとしては、子供たちに完成度の高い、いいものを、わかるかわからないかは別として、いい作品に触れてほしいという思いを持っています。そういう意味でも光村さんのようなものを子供たちに接してもらいたいという思いもあります。ただ、教えていく先生方にとっては、子供たちには難しいかなという思いを持たれるのかなという懸念を少し持ちました。

○教育長

具体的な教科書会社さんの名前も挙げていただきながら、絞っていきたいと思います。今出ているのは、教科書の様式等でいくと、委員Cさんが言われたあかつき、日文、光村さん、それぞれのところ。中身についての身近なとか、または話し合い活動、書く活動、このあたりがうまく使える教科書ということでは、日文さん、あかつきさん、教育出版さんのお名前が出ました。今お聞きしていると、委員の皆さんの中で出たところというのは、そのあたりかなと思います。教科書の形、内容、それから教師にとって、生徒にとっての使いやすさ、

または身近さ、または子供にとっての学習のやりやすさ、授業の中での活動するに当たっての使いやすい教科書、このあたりを含めて、ちょっと絞り込んでいきたいんですが。ほかに、今ご意見をいただいたことに加えて、何かご意見がありましたら、お願いします。

○委員C 僕は日本文教さんとあかつき、僕の中では今あかつきに絞っているんですけども、これを見たときに、この表紙が、自分の中での主観なんですけれども、どうなのかな。子供はこんな絵が好きですかね。

○教育長 事務局はどうですか。子供はどうですか、こういう教科書。

○事務局 今の子は多分好きかもしれませんね。

○委員C 多分そういう思いで、この業者は思い切ってされたのかなと思うのですが。

○委員B 選定委員会ではこれがいいという話でした。

○教育長 表紙だけでは決まりませんから。ただ、表紙も1つの選考条件として。

○委員C 大胆に思い切ってされたのだと思うのですが。

○委員A あかつきさんの、1年ごとに違う、「自分を見つめる」と「自分を考える」「自分をのぼす」という形で、大きなテーマといえはテーマで、観点を変えた形であえて何故変わったかということの問題提起しているようなことがあるので、僕はこのあかつきさんの表紙をすごく気に入っています。

大きく漫画を描いたり、表紙に写真を入れたりすると、それは1つのイメージ、インパクトがあってしまうと思います。真っ白な状態から考えていく、入るのだったら、文字だけのほうがとっつきやすいかなと思います。だから、教材の中に入っているものにも、インパクトのある写真を与えてどうするかということになって、ショッキングなことを与えることがいかどうかということも難しく、逆に言ったら、中学生になったら、オーソドックスな教材から、文章を読んだ中で行間にあるいろんなことを読み取りながら議論したほうがいいんじゃないかとも思います。写真にこだわると、その写真1つ、漫画1つについても、漫画の描き方でとり方が変わるので。

○委員C 表情が出たりしますからね。

○委員A だから、そういう意味では文章そのものできちんと書いて、あまり余分なものが入らない形での文章構成、紙面構成を選択したいなという気はしましたけどね。

○教育長 今、表紙の話になっていますが、表紙以外でも何でも結構です。

○委員D 内容重視というところで考えたら、やはり内容的にある程度の重さも必要かなと思って。やはり教材としては、せつかく教えてあげるのだから高いレベルを目指すという意味で、例えば光村さんだとか、その辺はやっぱりいいのかなと思います。

それと、先ほど委員Aさんが写真にインパクトということですけど、教育出版さんは私の中じゃ最も中身も良かったです。

- 教育長 よくご意見が出ている中でいいなというのが、あかつきさん、日文さん、そのあたりだと思うんですけども。あと、教育出版と光村の話が出ていますが、光村の意見はちょっと分かれているように私は受けとめています。すばらしいんですけども、難しい部分もあって、ついていける子供に限られるのではないかと、読解力みたいなものも含めたら難解かなという意見もある一方で、しっかりとした内容で、これをしっかりと酌んで思いを深めていくという意味ではいいかなというご意見と、ちょっと分かれていますけれども、そのあたりはどうですか。今聞いていて、委員Dさんは、これぐらいのことを、委員Aさんは難しいから、そういう面では気になる部分もあるということなんですけど、あと、どうですかね。お願いします。
- 委員B 私もほんとうはそれぐらいのレベルのものを読んでもらって、心に何か残ったものを大事にしてもらいたいという思いはあるのですが、この文章は授業で誰が読まれるんですかと聞いたら、教師が読まれると。読まれる方の力量によって文章の価値が変わってしまうような嫌だなと思います。
- 委員A 教師が読むんですか。
- 教育長 教師が範読する場合がありますよね。順番にずっと読ませて、教師が範読する場合があります。
- 委員C それが国語との違いで、やっぱりちゃんと読んであげないと、子供が読んで、言葉を間違えたりしたときに、指摘をしていたら文章に入りにくいので、範読する場合というか、CDとかが出ていたら、そのCDで音声を聞くとか、その辺が入ると。あと、子供に黙読させて、その後で教師が範読するとか。
- 教育長 毎回教師が読むわけではない。それが多いですね。
- 委員C そうです。あとはロールプレイですね。
- 教育長 どの教科書を使っても、最終的には教師の指導力というのが、どうしても影響してくるのは当然なんですけど、こんな中でご意見をいただきましたけど、委員Cさん。
- 委員C 私は、あかつきさんと日文さんは上位で、僅差で光村さんという形で今思っています。自分の評価の基準が、いじめだとどこも一緒だと。2番目に大切なのは情報モラルかなと思ったので、その情報モラルのところ調べたところ、日文さん、あかつきさんに比べて、やや光村さんのほうが内容が少なかったと、その部分だけで僕の中では光村さんが3番目になっています。ただ、教材的には光村さんは特にすばらしい教材だということはよくわかっているので、いいというのはわかっているんですけども。たまたま自分が2番目に情報モラルを持ってきて、その部分で差がついているということです。
- 教育長 先ほど、最初にご意見をいただいたように、どの教科書もほんとうに工夫されて、それぞれよさがあるって、どこも捨てがたいというご意見は最初にいただきましたけれども、とは言うものの、やっぱり1つに絞らなければいけないので、

今お聞きしていたら、光村さんも捨てがたいけど、日文さん、あかつきさんというご意見が多いんですけれども、2つは採択できませんので、そのあたりをもう少し絞り込みたいんですが、ご意見がそのあたりでありましたら、お願いできますでしょうか。

○委員A 内容的にはそれぞれの教科書、非常にすごい文章、いい文章があって、即引きつけられました。そうすると、この教科書はどんな意図をしているか、あるいは中学生が実際に読んだら、どんな形で議論できるのだろうということをいろいろ考えていたときに、光村は文章も最後までずっと書いてくれているし、内容的にすごくいいなと思ったのですが、議論にするに当たっては先生の負担が大きいなと思いました。

僕は個人的には光村が最高点なのですが、後の授業の仕方に関して、子供らあるいは先生が議論するときの難しさというのをすごく感じました。だから、内容もいいし評価は高いんですけど、実際にやるとなったら、ほかの2社のほうがやり易い。道徳ノートにせよ、それなりのものがついているほうがやり易いなということで、あかつきと日文がいいかなと思いました。

○教育長 選定の観点を、先ほども事務局からも話があって、その前の選定委員会のほうでも観点に基づいての報告がありましたけれども、学習指導要領との観点であるとか、内容、それから構成とか中身の分量ですね。それから、先ほども委員Cさんから出ました表記とか表現のあたり、この観点に基づいて今言いますと、委員Aさんがおっしゃっているのは、ご自分が見たときには光村が最高点だけれども、実際に授業をすることになったときのことも考えれば、あかつきさん、日文さんかというご意見ですかね。そういうことですね。

他の委員さんはどうですか。そのどっちですかね。2つが残りましたけれども。

○委員A もし選択するのだったら、あかつきかなと思っています。それで、先ほど言ってきましたけれども、選定委員の方々の評価というのは、やっぱりすごく評価しますし、僕の考え方とそんなにかけ離れていないとなったとき、選定委員の方々が努力して、いろんな点数をつけながら、あるいは一個一個に対して、表紙のあり方から文字の大きさから、いろんなことをしてくれていることに関して合致する分から考えて、彼らの評価はすごく尊重したいし、それで自分と合致しているからということからいくと、2つあわせると、自分の意見とあわせると、今の状態では1社に決まっていく形はあります。

○教育長 ありがとうございます。

○委員C 日文さんとあかつきさん、ここはほんとうに比較しても、なかなか優劣がつけにくいのが現状です。1社に絞らなければいけないんですが、最後の決め手が表面的なことになるといって申しわけない部分もあるんですが、そこしか差がつけられないのかなというのが現状だと思います。

結局私が考えたのは教科書サイズ、A Bサイズという点と教科書の表紙、も

う1つは、1年生のフォントのサイズをあかつきさんは大きくという、そういう配慮がされているということは、ほかの部分でも、僕が見つけていない部分でもいろんな工夫をされていらっしゃるのかなという勝手な思い込みも含めて優劣をつけさせていただくなら、あかつきさんが一番いいのかなと、今は自分の中では思っています。

- 教育長 ほかにもありますか、どうですか。なかなか難しい部分もありますけれど。
- 委員B 私は、あかつきさんか日文さんかというところ、やっぱり私はノートのところで方向性を示しているというところだけがちょっと気になる部分ですね。ですから、その部分でいうと、日文さんかなと思いますけど、先ほどお話を聞いていて、表紙にあまり何か先入観を入れないほうがいいということと言われると、あかつきさんかな。
- 教育長 迷っていらっしゃる？
- 委員B そうです。
- 教育長 またひょっとしたらご意見を聞くかもわかりませんが。委員Dさん。
- 委員D 今はあかつきさんか日文さんかということでの選択という感じですか？
- 教育長 そういうご意見でしたが、特にそれにこだわらずに、いや、ここだというのを言っていただけでも結構です。
- 委員D 個人的にやっぱり、いろいろな話から光村さんかなと思ったんですけども。ただ、いろいろと重いという話もあったりして、そうなのかな、先生の立場だったらどうなのだろうということを考えると、ちょっと下げざるを得ないかなと思います。それであと、あかつきさんと日文さんで評価しづらくて、私も事前に評価しているときには、話の進め方とかを考えたところで、あかつきさんの評価を高くしているんですね。道徳ノートというのがありますけれども、進め方としては別冊ノートというのは自分としては進めやすい気がしていたので、どちらか比較するとあかつきさん。
- 教育長 委員Bさんは迷っておられるということですが、迷っておられるままでいいですか。
- 委員B はい。
- 教育長 今ずっと聞いていますと、光村さんの中身とかも捨てがたい等のご意見もありましたけれども、選定委員会の報告、または子供にとって、教師にとって使いやすい、現場のほうで使うに当たっては日文さん、あかつきさんあたりということがあって、今のご意見の中では、やや廣済堂あかつきさんの教科書が望ましいんじゃないかというご意見だったと私は受けとめています。よろしいですか。そうしたら、貴重なご意見をたくさんいただき、総合的に判断して、あかつきさんじゃないかというご意見をいただいていますので、廣済堂あかつきさんということで採択ということで、どうですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 では、ほんとうにそれぞれご意見をいただいた中で、すばらしい教科書を力を入れてつくっていただいたということで、教科書会社さんにも感謝いたしまして、最終的には高砂市の31年度の中学校の道徳の教科書につきましては、廣済堂あかつきさんのものを選定ということで決議をさせていただきますので、よろしくをお願いします。

では、きょうの議案の平成31年度の使用教科用図書の採択につきましては、これで終了させていただきます。

そうしたら、第12回の臨時の教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

平成30年8月2日 午前11時25分 教育長会議の閉会を宣告
